

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標「グローバル社会に対応できる人材の育成」

母語・生活言語である国語の力を伸ばすことで読解力・表現力・論理的思考力を育み、国際語である英語の力を伸ばし、国際コミュニケーションの手段を獲得させる。また、将来、世界を舞台に活躍する人材の育成として、日本の歴史や文化、伝統を知り、生まれ育った国について誇りをもって語る力を身につけさせる。

- (1) 国際教育の推進を通してグローバルに活躍できる教養を身につけさせるとともに、習得した幅広い知識や技能を生かして社会をリードする人材を育成する。
- (2) 高い学力や自学自習力の他、自ら課題を見つけ、リサーチ・考察し、その解決法を提案・発信できる力を醸成する。
- (3) 校外の各種団体との連携を図り、地域の教育拠点校として様々な活動に取り組むことを通して地域社会に貢献する。

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成及び希望進路の実現

(1) 基礎学力の着実な定着

- ・英語探究科として専門性の高い授業を行うとともに、知識習得型授業と探究型授業をバランスよく組み合わせる。
- ・大学や研究機関との連携による学習、体験型学習に積極的に取り組むことにより、学習に対する関心・意欲を高め、知識・スキルを定着させる。

(2) 専門分野における活用力・探究力の向上

- ・生徒が主体的に国際交流に参加できるよう、姉妹校交流等の企画運営を工夫する。また、国際交流活動を体験型学習やアクティブラーニングの観点から捉え直し、一層の充実を図る。
- ・近隣の小中学校との交流等で、探究テーマに沿ったリサーチを実施し、論文作成・プレゼンテーションなどの課題解決的な学習活動を行う。

(3) 生徒の希望進路の実現

- ・生徒一人ひとりの学習の記録やキャリアパスポートを活用し、生徒の学習履歴や学校生活に係る意識について把握し、指導・支援する。
- ・外部人材を活用した講演会・講習等を、計画的かつ生徒のニーズにあうように実施する。
- ・国公立大・関関同立・産近甲龍等の大学現役合格者数を、大学進学希望者の50%以上とする。

過去3年の実績:R2 54.2%(英語科 63.5%)・R3 52.2%(英語科 44.4%)・R4 49.2%(12月現在) *R3までは国語科を含む。

2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

(1) 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成

- ・部活動と学習を両立させるよう計画的に指導を行い、生徒が自己管理能力を高めることができるよう支援する。
- ・学校生活において、生徒が連帯感・達成感を体得できるよう支援する。特にHR活動や人権学習において計画的に指導するとともに、生徒の状況を的確に把握し、指導方法の工夫改善に努める。

(2) 地域に開かれた学校づくりを推進するとともに、異校種間連携を充実させる。

- ・近隣学校園や大学との連携を促進し、教職員間の交流及び高大連携を踏まえた研修を定期的実施する。

3 教員の指導力の向上

(1) ICTを活用した取組みの推進

- ・1人1台端末を効果的に活用し、生徒の学習活動を一層充実させるため、ICTを活用した授業実践に向けた研修の実施や好事例の共有を行う。

(2) 授業改善に取り組むための研究及び研修の充実

- ・学校内外で教材・資料・指導方法についての研究と交流を図り、指導方法の工夫改善に努める。
- ・学校全体として研究授業を行うとともに研究協議を実施し、積極的に授業改善のためのPDCAサイクルを的確に回す。
- ・授業アンケート、生徒・保護者向け自己診断を適切に活用するとともに、指導と評価の一体化を図る。

4 働き方改革への適切な取組み

- ・教職員の時間外在校等時間を適正に把握し、安全衛生委員会等で課題を整理するとともに、時間外在校等時間の縮減を図り教職員の健康保持・増進に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】 主体的・対話的で深い学びの実践、授業への積極的参加を促し、特色ある探究学習を行い、生徒アンケートでは「新しい発見や興味につながる」という評価が84%であった。 英語探究科として異文化理解に関する様々な実践に取り組み、7,8月教育産業グローバル体験、8月オーストラリアホームステイ研修、10月フィールドトリップ in 京都、10月 Skit Contest の実施、11月香港元朗信義中学訪問団受け入れ、11月 MW 交換留学生受け入れなど、国際交流活動を多数実施でき、生徒の学校の授業に対する満足度は89%であった。</p> <p>【生徒指導等】 基本的な生活習慣を確立し、体調管理や規範意識向上などに取り組み、生徒アンケート肯定的回答も86%(R4 75.3%)であった。生徒問題の早期発見に努め、担任・生活指導・支援教育担当・管理職が連携し、特別支援委員会やいじめ対策委員会など心理面や人間関係などに起因する様々な問題に取り組み中途退学・転学防止を行った。部活動や学校行事も4校協力して実施し、目標どおりに生徒会中心の学校行事を行った。</p> <p>【進路指導等】 専門性を生かし大学現役合格の進路希望を実現させ、進路実現のための補</p>	<p>南・西・扇町総合高校は再編により桜和高校と併置されていることから、学校運営協議会は桜和高校と同一。</p> <p>第1回(6月26日) ○R5年度学校経営計画について ・教育現場の多忙化による教員志望者減にどう対応していくかが課題であり、働き方改革を進めて魅力ある職場環境を整えていくことが重要ではないか。働き方改革を実行するには雰囲気づくりが大事なので、誰かがリーダーシップをとってやっていけばやりやすいと思う。そのために職員会議の日を一斉退庁日にするなどの工夫によってノー残業デー等の実施は可能である。また、業務の効率化をはかることにより教材研究や生徒に向き合う時間ができ、それが結果的に生徒のためになっていくのではないだろうか。 ・クラブによる長時間労働の是正が急務である一方で、クラブ顧問をしたい先生のモチベーションをどうしていくかが今後の課題である。 ・桜和2年の「教育ボランティア」の進捗状況はどうなっているのか。部活動に対するボランティアも重要であるが、どうしても夏季休業中に限定されてしまう。中学校としては運動会や文化祭の受付など様々な行事に参加してもらおうとありがたい。</p> <p>第2回(11月20日) ・扇町総合高校の新聞探究という授業は大変素晴らしい取り組みである。ネット社会にお</p>

府立南高等学校

<p>習等では 93%が肯定的評価であった。進路意識向上のためのキャリア教育等を行い、生徒アンケートで「将来を考える機会がある」との評価は82%であった。</p> <p>【校務運営等】</p> <p>ICTでは1人1台端末を活用し職員会議ではペーパーレス化や教職員研修会も実施できた。働き方改革として部活動では適切な休養日を設定し、長時間勤務の縮減に向け取り組み、月1回ノー残業デーを実施し、外部講師による全体部活動日を設定して取り組んだ。</p>	<p>いて広域的に情報を得るという点で、新聞は優れている。新聞を読むきっかけにもなり、いい経験をさせていただいた。学校教育自己診断アンケート等を通じて、子どもと話す機会ができてありがたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南高校の英語探究科としての成果を見る場をつくっていただけないか。 ・桜和高校の教育探究で作成した「探究MAP」を見たい。 ・STEAM 教育はこれからの教育で大切になってくる視点なので、遊びの部分大切に組み込んでほしい。校則を決めていくということに関しても、マイノリティやユニバーサルな視点を大切に組み込んでほしい。 ・STEAM 教育の取り組みが委員会から降りてきているが、実際のところ困っている部分がある。どのように取り組んでいるか聞きたい。校則等のルールの見直しをしたことがあるが、生徒は固く考えがちなので、ルールは分かりやすくするのがよい。教育ボランティアの授業の一環で本校（北稜中学校）に来てくれた。部活動や文化祭の受付などをしてくれたが、インターンシップのように1日学校にいるほうが、学校のことがよりわかるのではないかと思う。 <p>第3回（2月19日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観を土曜日に設定してくれてはいるが、仕事で来られない保護者もいると思うので、一週間ほど授業参観期間を設けるなどの対応はどうでしょうか。 ・部活動等でも保護者同士の連携が取れたらいい。試合の応援などで部内の保護者と連携が取れたら応援も盛り上がりよくなると思う。 ・学校教育自己診断における「学校に行くのが楽しい」が肯定的な数字が出ているのは良いことだが、否定的な数字が一定数いる。その理由を聞く項目はあるのか。また、その理由も調べられたらどうか。 ・学校教育自己診断における保護者「子どもには、宿題等家庭学習の習慣がついている」の項目の肯定的数値が他より低いということであったが、中学校からの状況や家庭環境等もあることから、一概に低いから学校の責任であるとは言えないのではないか。それよりも学習がどう習慣化されたかということがわかればよいのではないか。 ・地域、保護者との連携をより深めていくことが今後の学校の課題であるということであったが、地域との連携を子どもたちはどう感じていたのか。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 「確かな学力」の育成及び希望進路の実現	(1) 基礎学力の着実な定着	(1) 1人1台端末の効果的な活用により、授業の充実を図り、全ての生徒の学力の伸長をめざす。	(1) 生徒・保護者向け自己診断「教材や教授法がわかり易く工夫されているので、基礎的・基本的な内容がよくわかる。」を80%以上にする。[R4 81.4%]	(1) ・1人1台端末を効果的に活用し、授業の理解度が向上した [R5 86%]◎
	(2) 専門分野における活用力・探究力の向上	(2) ・探究活動では関係機関と連携し、専門分野における探究的な学びの充実。 ・コロナ禍において安全を留意し、対面及びオンライン形式で姉妹校交流訪問に取り組み、実践的な英語運用能力を育成する。 ・大学、及び関係校からの評価・助言を受け、課題研究指導プログラムの研究開発を伸展させる。 ・探究活動のグループ発表において、協働的な学びを取り入れ、生徒間の交流を図る。	(2) 生徒・保護者向け自己診断「他の学校にない特色ある教育活動に取り組み、新しい発見や興味に繋がる。」を80%以上にする。[R4 85.2%] ・姉妹校交流活動を実践的に取り組み1回以上実施する。 ・大阪教育大学や大阪観光局等の関係団体と連携行事実施や海外派遣・留学等選考の指導等を年3回以上行う。[R4 派遣生徒0名]	(2) ・特色ある取り組みが進路決定につながった[R5 84%]◎ ・姉妹校へのホームステイ研修に参加[R5 派遣生徒南高校2名]、大阪観光局[R5 1回]、教育産業[R5 2回]の協力の元、留学生との交流活動、さらに姉妹校からの留学生との交流活動、香港からの訪問団受け入れなど多岐にわたる国際交流を実現することができ、専門学科として特色ある教育活動を行うことができた。◎
	(3) 全ての生徒の希望進路の実現	(3) ・3年間を見通した総合的指導計画（学習指導・進路指導・生活指導等）のもと、外部講師を招聘したキャリア教育を実践する。 ・難関私立大学や共通試験対策など希望進路先別の生徒ニーズに応じた平日補習や長期休業中の補習体制などの校内体制を構築する	(3) ・外部講師招聘事業年間2回実施。 ・生徒・保護者向け自己診断「生徒の適性や希望を生かした適切な進路指導を行うために、平日や長期休業中の補習体制を整え、実施している。」を80%以上にする。[R4 83.8%]	(3) ・外部講師として、小論文講座の実施、英語落語を実施し、キャリア教育を実践することができた。[R5 2回]◎ ・平日や長期休業中の補習を行い、生徒の適性や希望を生かした進路指導を行うことができた。[R5 93%]◎

府立南高等学校

<p>2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ</p>	<p>(1) 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成</p> <p>(2) 地域に開かれた学校づくり・異校種間連携</p>	<p>(1) ・部活動と学習を両立させるよう計画的に指導する。家庭学習時間確保の把握と指導を行い、生徒の自己管理能力を高める。</p> <p>・一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実に向け、生徒支援委員会等で定期的に情報共有を行うとともに、スクールカウンセラーや、関係諸機関との連携により、生徒の心のケアを図る。</p> <p>(2) ・近隣の小中学校と連携した授業を通して、生徒が地域との連帯感・達成感を体得できるよう指導する。</p> <p>・外部人材の活用など人権学習等を充実させ、人としての在り方生き方を学ぶ人権教育を計画的かつ総合的に推進する。</p> <p>・社会貢献に取り組む卒業生や専門家による講演及び連携協力を推進する。</p>	<p>(1) ・生徒・保護者向け自己診断「ホームルーム活動、学校行事、部活動は高校生活が有意義なように計画されている。」を80%以上にする。[R4 71.3%]</p> <p>・生徒・保護者向け自己診断「困っていることは相談でき、さらにスクールカウンセラーがいる環境があり安心感がある。」を70%以上にする。[R4 64.2%]</p> <p>・生徒・保護者向け自己診断「この高校に入学して満足している。」を80%以上にする。[R4 81.3%]</p> <p>(2) ・近隣の小中学校との交流を進める。[R4 堀川小学校・北稜中学校と交流(模擬授業等)]</p> <p>・生徒・保護者向け自己診断「生徒の意見や悩みを丁寧に聞いてくれる熱心な先生が多い。」を80%以上にする。[R4 77.6%]</p> <p>・生徒・保護者向け自己診断「人権を尊重する教育活動が実施されている。」を80%以上にする。[R4 73.4%]</p> <p>・豊かな人間性の涵養のための講演会を実施する。[R4 各学年1回 実施]</p>	<p>(1) ・HR活動、学校行事、部活動は高校生活が有意義になるよう計画することができた。[R5 84%] ○</p> <p>・安心安全な学校づくりに向けた環境があるという評価が目標を大きく上回った。[R5 80%] ◎</p> <p>・高校生活の満足度を向上させることができ、目標を達成することができた。[R5 89%] ◎</p> <p>(2) ・部活動を通じた小中学校との交流を実現することができた。○</p> <p>・生徒の意見や悩みを丁寧に対応した結果、目標を上回ることができた。[R5 86%] ○</p> <p>・様々な場面で人権を尊重する教育活動を実施した結果、目標を上回ることができた。[R5 86%] ○</p> <p>・外部講師を招聘し、人権講演会を実施した。[R5 1回] ○</p>
<p>3 教員の指導力の向上</p>	<p>(1) ICTを活用した取り組みの推進</p> <p>(2) 授業改善に取り組むための研究及び研修の充実</p>	<p>(1) ・自宅学習に柔軟に対応できる指導方法の工夫改善に努め、学習課題の作成と配信を促進する。</p> <p>(2) ・新学習指導要領を踏まえ、各教科において指導と評価の一体化について、統一・共有化を進める。</p> <p>・学校全体として研究授業を行うとともに研究協議を実施し、授業改善のための計画、実践(指導)、評価、改善のサイクルを的確に回す。</p>	<p>(1) ・自宅学習用教材や課題等を積極的に配信し、オンライン授業に取り組む。[R4 97.0%]</p> <p>(2) ・生徒・保護者向け自己診断「授業がわかりにくい生徒には、個別指導や放課後補習などの特別な指導等により理解できるように工夫されている。」を70%以上にする。[R4 64.1%]</p> <p>・生徒・保護者向け自己診断「学習や学校生活で努力したことに合わせて、評価されていると思う。」を80%以上にする。[R4 82.6%]</p> <p>・各教科年1回以上の研究授業を実施し、授業改善に役立てる。[R4 年次研修等一部教員が実施]</p>	<p>(1) ・授業でICTを積極的に活用し、課題等もオンラインでも行うことができた。また教授方法の1つとしてICT教員研修を実施し、授業改善に向けた取り組みを行った。[R5 93%] ○</p> <p>(2) ・生徒に寄り添いながら、個別指導や放課後補習などの特別な指導を行った結果、生徒の理解を進め、目標を大幅に達成することができた。[R5 84%] ◎</p> <p>・指導と評価を一体化し、適切な評価で学習意欲を向上させた結果、目標を大幅に達成することができた。[R5 93%] ◎</p> <p>・年次研修等で研究授業を実施し、授業改善のため授業アンケート2回、面談3回、相互見学週間を2回実施し、授業の改善に尽力した。○</p>
<p>4 働き方改革への取り組み</p>	<p>(1) 働き方改革への適切な取り組み</p>	<p>(1) ・時間外労働の縮減を図る。安全衛生委員会等で時間外労働の数値結果を共有する。</p> <p>・部活動においては、週1回の確実な休養日を設定し、長時間勤務の縮減に向け学校全体として取り組む。</p>	<p>(1) ・時間外労働時間の平均を昨年度より1割削減する。 [R4 38時間15分]※4月～12月の平均</p> <p>・週1回のノー残業デーの確実な実施と月毎の時間外勤務時間縮減に向け、個別指導も含め学校全体として取り組む。 [R4 月1回ノー残業デーを実施] [R4 外部講師による全体部活動日を設定し実施]</p>	<p>(1) ・時間外労働縮減の取り組みを実施し、働き方改革をより進めるよう工夫することができた。[時間外労働時間平均 R5 36.52] ○ (R5 4月～12月現在)</p> <p>・毎週水曜日をノー残業デーとし、毎週実施することができた。また、月に1度外部講師を招聘し、全体部活動日を設定、実施することができた。○</p>